

当館が認知した主な犯罪の事例（4月～6月）

以下は、当館が認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）事例です。

1. 空き巣の被害

【事例 1】

不在中、自宅アパートにおいて、何者かに玄関扉を壊され、侵入されたほか、室内を隅々まで荒らされて貴重品が盗まれる被害に遭った。アパートは集合アパートで、エントランス及び各階部屋にそれぞれ扉が設置されている。また、自宅居室は、2階以上に位置しているが、自身の居室のみ被害に遭った。

※なぜ特定の住宅が狙われたのか分かりませんが、どこかで情報が漏れている可能性も否定できません。空き巣対策としては、カーテンを閉めておくことや、長期不在の際は電灯をつけたままにすることも有効です。また、近所に知人がいる場合、定期的に自宅の様子を確認してもらうことも有効な対策の一つです。

2. 車上ねらいの被害

【事例 1】

某日夜間（21～23 時）に、インマーマン通り近辺の立体駐車場に車両を駐車していたところ、助手席の窓を割られ、盗難の被害に遭った。後部座席の足下に隠していた鞆ごと（精密機器及びパスポート等在中）が盗まれた。

※立体駐車場であっても、日本と同様に安全とは限りません。短時間の外出であっても、貴重品は必ず身につけるとともに、荷物はトランクに収納し、車外から見えないようにしてください。

3. 置き引きの被害

【事例 1】

デュッセルドルフ市内で開催された大型行事において、ブース内に置いていた関係者のバッグが窃取された。後ほどバッグは別の場所にて発見されたが、Airpod 等一部の貴重品が無くなっていたため、Airpod の位置情報を追跡した結果、犯人を特定。観光客を装って複数のブース内に立入り、犯行に及んだ模様。

※多くの人が集まるイベント会場では、常に貴重品を身につけるようにしましょう。また、席を離れる際は荷物を持参するか、信頼できる人に預けるなど、仲間同士で声をかけ合うようにしましょう。

4. 暴行

【事例 1】

インーマン通りを歩行中、若い女性から突然、腕を大きく振り回すような動作で、頭部や首の付け根を殴打される被害を受けた。さらに、付近を歩行していた別の外国人の通行人数名に対しても、同女性による暴行が加えられていた。
※外出の際は周囲の状況に常に注意を払い、不審な人物には近づかないようにするとともに、人通りの少ない場所や路地裏等への立ち入りは避けるように心掛けてください。

5. その他

【事例 1】

電車で移動中、連結部分に居たところ、ポーランド人を名乗る男から写真撮影を疑われて声をかけられた。その後やり取りをする中で、成り行きでついて来るように言われ、応じたが、途中で男が別の乗客と口論になり、その隙にその場を離れた。なお、しばらくして、男が自分を探している様子が窺えた。
※電車内では予期せぬトラブルに巻き込まれることがあります。見知らぬ人から声をかけられても安易に応じず、決してついていかないよう十分注意してください。